

二次性高血圧症 について

通常の高血圧症は、原因の明らかでない高血圧、すなわち血圧上昇をきたす基礎疾患をみいだせない高血圧で、「**本態性高血圧**」と診断されます。高血圧患者のうちで90～95%を占めます。

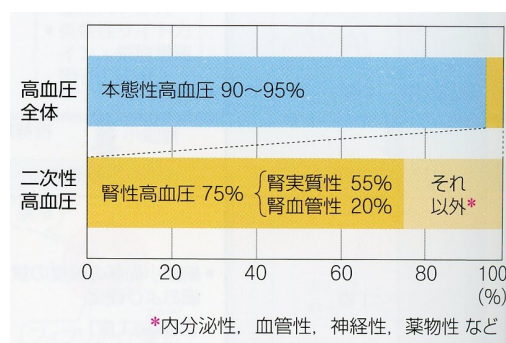
*「本態性」とは、「その原因がわからない」ことです。

一方で、腎疾患や内分泌疾患といった血圧上昇の原因が、検査によって特定できる高血圧は「**二次性高血圧**」と呼ばれます。高血圧全体に占める二次性高血圧の割合は5～10%程度とされています。（図右下）

その中では**腎実質性高血圧**（2～5%）、**腎血管性高血圧**（0.5～1%）、**原発性アルドステロン症**（3～10%）が頻度の高い疾患とされています。また、**睡眠時無呼吸症候群**に合併した高血圧の頻度も高いと言われています。

一方で**褐色細胞腫**、**クッシング症候群**は非常に稀な疾患です。（図下）

また、二次性高血圧の頻度は年齢によって異なり、若年の重症高血圧者では50%以上にも達すると言われています。具体的には、若年者では大動脈縮窄症や腎疾患、中年者では原発性アルドステロン症、睡眠時無呼吸症候群、甲状腺機能異常、褐色細胞腫、クッシング症候群などが、高齢者では慢性腎機能障害、粥状動脈硬化性腎動脈狭窄症、甲状腺機能低下症などが多い傾向にあります。

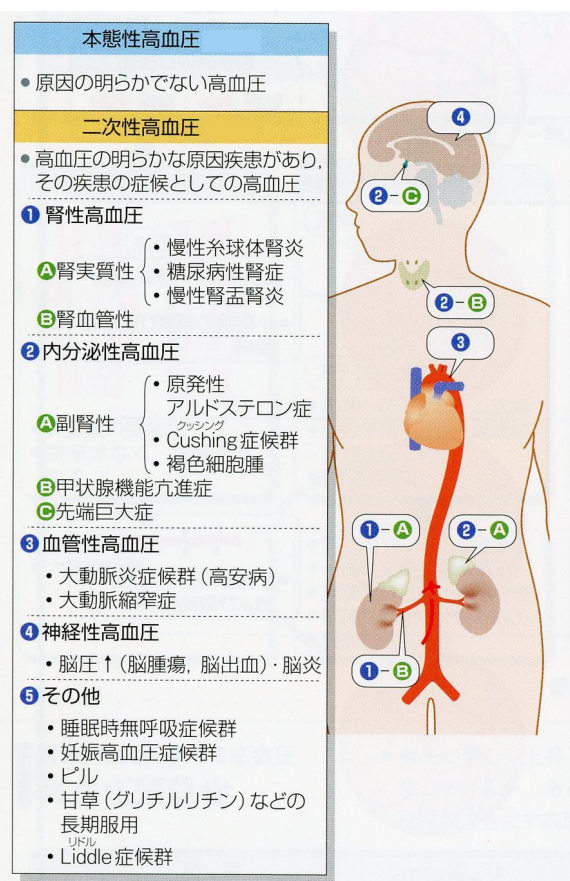
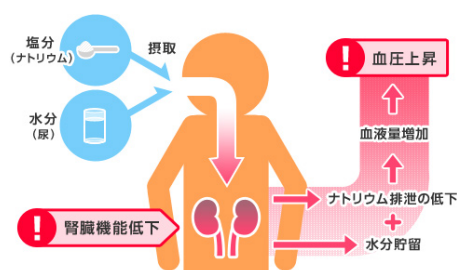


腎臓と高血圧は 切っても切れない関係にあります。

高血圧により腎臓が悪くなるし 腎臓が悪いと血圧が上昇する。お互いが悪い影響を与え合って負のスパイラルが形成されてしまいます。

腎実質性高血圧の主な原因は「糖尿病性腎症」や「慢性糸球体腎炎」「多発性嚢胞腎」といった腎障害です。

腎臓が悪くなると糸球体（血液をろ過して尿を作る部位）のろ過機能が低下するのでナトリウムの排泄も低下して体内に蓄積します。そんな状態で塩分を過剰摂取すると、ますますナトリウムが蓄積し浸透圧調整により細胞外液の水分量が増え血圧が上昇します。これが腎臓が悪くなると血圧が上がる第一の原因です。（図下）

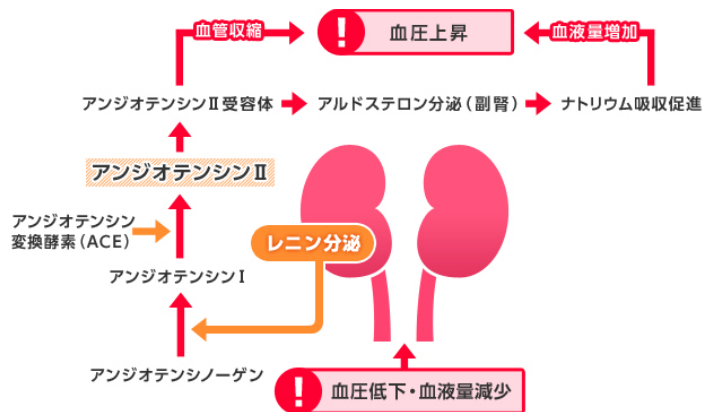


また腎臓が悪くなると血圧が上がる原因には**レニン-アンジオテンシン系（*）**という、ホルモンも関係します。

*：腎臓は**レニン**という酵素を分泌します。レニンは 肝臓で作られる**アンジオテンシノーゲン**を分解して**アンジオテンシンⅠ**にします。アンジオテンシンⅠは アンジオテンシン変換酵素（ACE）により**アンジオテンシンⅡ**に変換されますが、このアンジオテンシンⅡがナトリウムの過量が減らし再吸収量を増やすので 血圧が上がります。

アンジオテンシンⅡは副腎に働きかけて**アルドステロン**という腎臓でのナトリウム再吸収を促進するホルモンを産生させます。これらの機序によりさらに体内にナトリウムが蓄積し、結果として血圧が上がります。

もともとレニンは糸球体への流入血液量が少ないとたくさん分泌されます。たくさん分泌されたレニンがアンジオテンシンⅡを介して血圧を上げて糸球体に流入する血液量を増やして どんどんろ過をして体内の不要なものを排泄させようとするわけです。しかし全身の血圧は正常でも糸球体に入る血管に動脈硬化があると流入血液量は減りますから腎臓は血圧が低いと勘違いしてレニンをたくさん分泌し、さらに血圧が上がります。



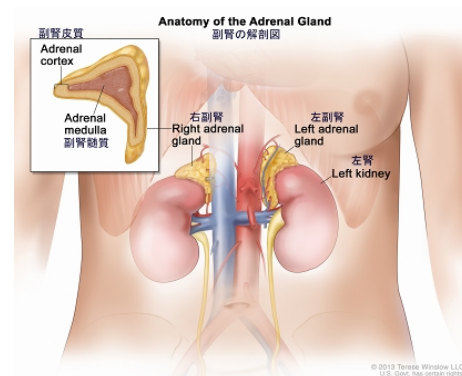
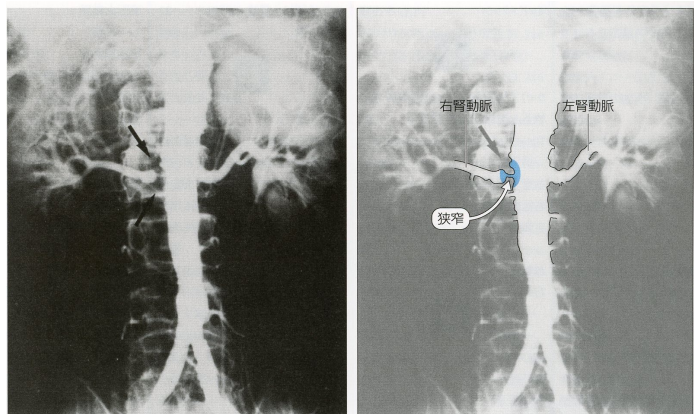
腎血管性疾患

腎動脈の動脈硬化や血管炎により腎動脈が狭窄(図 右)することが原因となる高血圧です。

原発性アルドステロン症をはじめとする内分泌の病気、すなわちホルモンの病気による二次性高血圧症は、**内分泌性高血圧症**とも呼ばれます。

原発性アルドステロン症は、副腎皮質(図右)からアルドステロンというホルモンが過剰につくられる疾患です。狭い意味での原発性アルドステロン症はアルドステロン産生副腎腺腫のことをいいますが、両側性の副腎過形成に伴う特発性アルドステロン症や副腎がんを含めて、広い意味で原発性アルドステロン症と呼ばれることがあります。

以前は全高血圧の0.3~1%と報告されていましたが、近年の診断法の進歩により、その頻度は10%前後と決して少ないものではないことが明らかになってきました。



図(上)：副腎は腎臓の上にあるアーモンド大の小さな臓器です。内側を副腎髄質といい危険な状況を回避するため、アドレナリンやノルアドレナリンを放出して脳と体を加速させる役割をします。外側を副腎皮質といいコルチゾール、DHEA、アルドステロンの3種類のホルモンを分泌しています。

図は、「病気がみえる vol.2 循環器」<MEDIC MEDIA>、「高橋医院」ホームページ、「がん情報サイト」から引用しました。

この「診療所だより」や診療についての御意見・御要望などをお気軽にお寄せ下さい。

これからの参考にさせていただきます。

編集・発行： 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4（御国通り2丁目）
電話：0745-65-2631